

田原本町住民協議会メンバー向け研修

それは、未来をつくれるか。



「田原本町公共施設あり方検討」の意義と概要

2023年2月18日
構想日本 特別研究員
荒井 英明

本日の研修と今後のスケジュールについて

名称	予定日時	目的	概要
住民協議会メンバー向け研修	R.5.2.18(土) PM1-PM3	本事業の目的共有 住民協議会の意義 各シート(※)の概要 把握	<ul style="list-style-type: none"> ・講義(1時間) ・質疑応答(30分)、感想及び意見交換(30分) ※施設・事業シート、評価・改善提案シート
R4-協① 施設レビュー	R.5.3.18(土) AM9-PM5	対象公共施設の現状 把握、課題整理	対象施設毎に以下を実施 <ul style="list-style-type: none"> ・担当課職員:現状や将来展望を説明(各種シートを使用) ・有識者:担当職員と質疑応答(1問1答形式) ・コーディネーター:議論進行(参加者への問いかけ) ・住民協議会メンバー:評価シートに論点や意見を記入
R5-協① 住民協議会1回目	R.5.4.22(土) AM9-PM0	参加者の多様な論点 で議論	対象施設毎に以下を実施 <ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーター:課題、論点を共有し、議論進行 ・住民協議会メンバー: 評価シートを元に議論、結果を改善提案シートに記入 ・その他参加者(ナビゲーター、担当課職員): コーディネーターの問いかけに従って発言
R5-協② 住民協議会2回目	R.5.5.20(土) AM9-PM0	議論の深堀	基本的な進め方は1回目同様だが、コーディネーターは論 点や課題を絞って議論を行う <ul style="list-style-type: none"> ・住民協議会メンバー:改善提案シートに変更、追記
R5-協③ 住民協議会3回目	R.5.6.17(土) AM9-PM0	収束及び統合に向け た議論	基本的な進め方は2回目同様だが、コーディネーターは議 論収束に向けた方向で進める <ul style="list-style-type: none"> ・住民協議会メンバー: これまでの議論を踏まえて、改善提案シートの追記変更

自己紹介

荒井英明（構想日本 特別研究員）

- 「明日の地方財政を考える会」の代表幹事の1人として、構想日本事業仕分けプロジェクトに初期から参加。
- 2002年～ 自治体の事業仕分けへの参加。
自治体職員としては、最も多くの自治体に行った仕分け人。

【主な参加自治体】

宮城県、足利市、鹿沼市、土浦市、古河市、所沢市、松戸市、市原市、横浜市、開成町、長野県、静岡県、安城市、高島市、大阪市、門真市、奈良市、美作市、広島県、出雲市、高松市、大刀洗町 …（これでもほんの一部です）

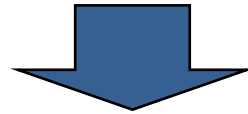
- 2009年11月～ 内閣府行政刷新会議が実施した政府の事業仕分けに参加。
- 2012年5月、インドネシア国会（地方代表議会）において事業仕分けの講演。
- 2014年～ 住民協議会への参加。

【主な参加自治体】

大刀洗町、三木町、浜松市

「公益」の定義

- 社会一般の利益、公共の利益 = 「不特定多数の者の利益」
 - 「不特定多数」とは？
 - 「公益」の重要な要素 ⇒ 「誰にでも」開かれているかどうか

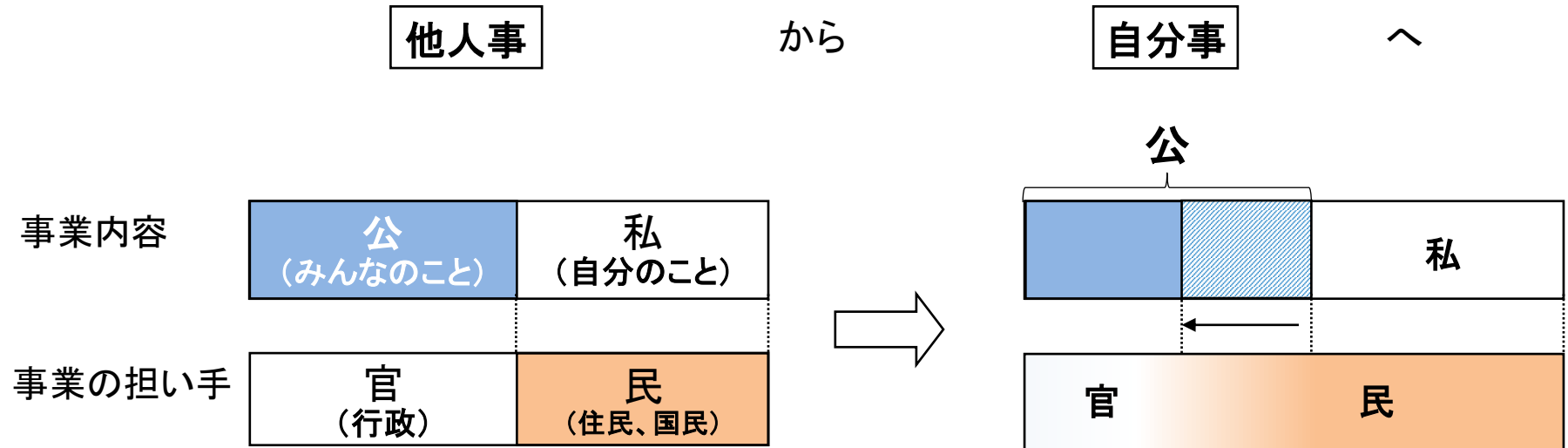


「公益」=「みんなの利益」

「益」とは何か？

- 「モノ」「カネ」「サービス」だけが「益」ではない。

「みんなの利益」は、立場や環境によって異なることに注意する。



「公共の利益(住民の利益)」を「官(行政)」がすべて行う仕組みを見直し、住民自身が世の中を担う仕組み作りが本当の民主主義といえる。

行政への住民参加の手法

これまで

公募方式

広報紙等で募集し、住民からの応募によって決める方法。

<特徴>

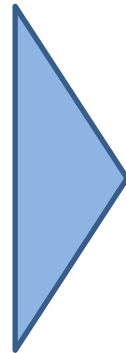
意識の高い人の声を聞くことができる一方で、利害関係者などが手を挙げ、参加者が特定の人に固定化する傾向。

推薦・一本釣り方式

団体からの推薦や首長の一本釣りで決める方法。

<特徴>

専門性の高い人や地域の有力者を選ぶことができる一方、毎回団体の長を選ぶことによる形骸化や参加者の固定化などの課題あり。



これから

公募方式

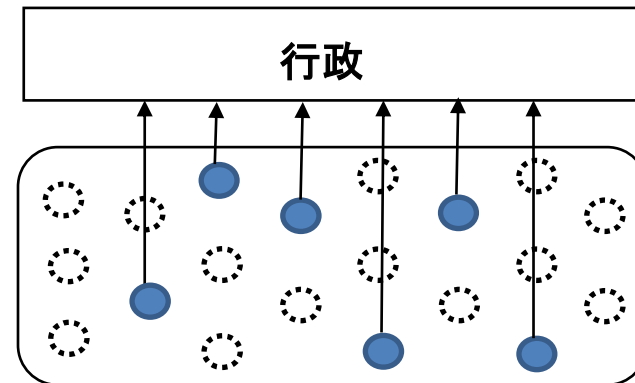
推薦・一本釣り方式

無作為抽出方式

無作為で選んだ住民に案内を送付し、その中の希望者が行政の取組みに参加する方法。

<特徴>

行政と接点の少なかった人、参加を躊躇していた人など、広範な住民の参加を望める。



参加手法を一つ追加するだけで、住民と行政の距離が大きく近づく可能性がある。

公共施設の課題整理（施設レビュー）について

公共施設の最適化の背景と必要性

高度経済成長期に多くの施設が作られ、40～50年が経過

施設の劣化


- 老朽化
- 耐震化
- バリアフリー化
- 環境負荷の低減 等

社会環境、行政需要の変化

- 人口減少
- 人口構造の変化(少子高齢化)
- ライフスタイル、ニーズの多様化
- 財政状況の逼迫等

市町村合併

- 旧市町村時代の
公共施設が存置



徹底した多機能・複合化による
小さく質の高い公共施設への最適化

区分（単位：棟数）	市町村	都道府県	全体
1. 社会福祉施設	18,857	1,394	20,251
2. 文教施設（校舎、体育館）	122,113	27,745	149,858
3. 庁舎	9,103	4,534	13,637
4. 県民会館・公民館等	26,857	935	27,782
5. 体育館	6,718	241	6,959
6. 診療施設	3,896	578	4,474
7. 警察本部、警察署等	-	5,299	5,299
8. 消防本部、消防署所	5,538	554	6,092
9. 公営住宅棟	89,540	33,267	122,807
10. 職員公舎	1,580	10,700	12,280
11. その他	43,643	13,281	56,924
計	327,845	98,528	426,373

出所：消防庁「防災拠点となる公共施設等の耐震化推進状況調査報告書」（2017.11）

「体育館だけでも全国の市町村(1724)で6900棟以上(平均約3棟/市町村)ある。
この6年で総数が約6万棟増加しており、合併により「隣の町にあるからうちの町にも」のような発想がさらに助長されている可能性がある。

「公共施設のあり方検討」について

(1) 議論に参加する住民の選び方が「無作為抽出」

無作為に選んだ住民に案内を送付し、応募のあった人が委員として参加する。
多様な住民との議論によって方向性を出すのは田原本町では初めての試み。

(2) 議論するテーマが「公共施設のあり方」

令和4年3月に改版された「公共施設等総合管理計画」の考え方を具体的に着手するため、計画(「個別施設計画」)の材料を多様な住民との対話の中から引き出す。

(3) 住民との議論の前に外部の視点を使って公共施設の課題整理

公共施設のあり方検討は様々な切り口があるので、外部の視点で課題の洗い出しを行う(施設レビュー)。
施設レビューで抽出された意見や課題を整理した上で住民同士で議論を行う(住民協議会)。

無作為に選ばれた住民と公共施設全体の見直しの議論を行うのは全国的にも珍しい。

「施設レビュー」の3つの柱

1. 「施設シート」を活用

- 建物や土地の基本情報や利用状況などが纏められた「施設シート」で全体像を把握する。
- 施設シートを活用し、施設間での比較が可能になる。

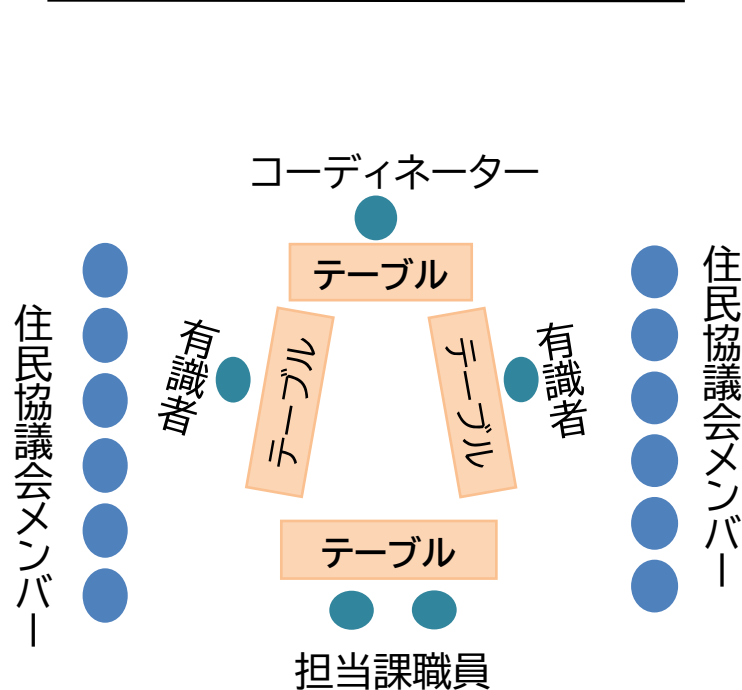
2. 事業と施設を一緒に考える

- 施設そのものだけではなく、施設内で実施している事業内容(実施する必要性、経費の妥当性、実施手法の改善策はないか等)を評価する。
- 事業の評価を踏まえて、施設の有効活用の方策や管理のあり方について評価する。

3. 無作為に選ばれた住民との議論による合意形成の仕組みづくり

- 施設の見直しを行なっていく上で最も難しいのが住民の合意形成。
- 「総論賛成、各論反対」の構図が最も顕著に表れるのが公共施設の見直し。
- そのため、施設見直しの計画段階から、多くの住民に参加してもらうことが大事。

会場のレイアウトイメージ(例)



議論の流れ

事業説明

- 担当課職員が施設の概要や主なポイントを説明する。

質疑議論

- 有識者から担当課職員に対して、様々な視点から質問する。
- 有識者の質問は**一問一答**を原則とする(複数の質問をして回答をすると噛み合わなくなる)。
- 住民協議会メンバーは、有識者と担当課職員の質疑と議論を聞きながら随時評価シートに記入する。
- 議論の後半で住民協議会メンバーが評価に必要な質問があれば発言する。

評価

- コーディネーターが評価のポイントを説明し、住民協議会メンバーは評価シートの評価欄の中から1つ選択し、併せて特記事項等の記入を行う。
- 事務局が評価シートを回収し、取りまとめたうえでコーディネーターから評価結果の公表する。
- 住民協議会メンバーから意見や感想の表明、及びコーディネーターから評価シートに記載のコメントの紹介等を行う。

施設評価シート

施設カテゴリー: ○○センター

市民評価者 No. _____

区分	1. 施設の総量・配置	2. 施設の有効活用	3. 施設の管理	4. 施設の実施事業	5. コメント(自由記載)
施設カテゴリーとしての判定	<input type="checkbox"/> 見直しが必要 <input type="checkbox"/> 総量増加 <input type="checkbox"/> 総量減少 <input type="checkbox"/> 配置の見直し(統廃合を含む) <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 見直しが必要 <input type="checkbox"/> 他用途への転用(一部転用を含む) <input type="checkbox"/> 民間の活用 <input type="checkbox"/> 利活用の拡大 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 見直しが必要 <input type="checkbox"/> 指定管理者制度・民間委託の導入 <input type="checkbox"/> 受益者負担の適正化 <input type="checkbox"/> 住民・地域による自主管理 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 見直しが必要 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 事業内容の見直し(縮小など) <input type="checkbox"/> 実施施設の見直し <input type="checkbox"/> 対象者の見直し <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 現状維持	
	各施設に関する意見等	○○センター			
	○×センター				
	○△センター				
	△×センター				
	××センター				
	△△センター				

要不要だけでなく「多視点」での評価を行う

住民協議会について

【目的】

- 身近な問題を政治・行政任せにせず、住民自らが自分事として町の状況を知り意見を出し合う。
- 行政の取組について具体的に考え、課題解決を目指す。

【基本的な考え方】

(1)参加する住民の選び方が無作為抽出

- 無作為に選んだ住民に案内を送付し、応募のあった人がメンバーとして参加する。

(2)地域の課題について、生活から見える現象をもとに住民間で議論

- 進め方のシナリオは一切作らない。参加する住民の発言から論点生まれ議論を発展させていく。
- 行政への批判だけでなく、提案するための議論になるよう、外部の人間がコーディネーターを務める。コーディネーターは安心して議論できる環境を作る。

(3)「個人でできること」「地域でできること」から考える

- 行政や各種団体への要望に終始するのではなく、課題解決のためにまずは自分たちでできることから考える。
- 「言いつぱなし」で終わらないように、参加する住民は具体的な課題とその改善策を記入する。

参加する住民の生活実感が議論の入口であり、
「何をすべきか」ではなく「自分はどうか」の議論を行う。

議論の流れ

施設レビュー

公共施設の課題整理

<1回のみ>

- 担当課職員から公共施設の全体像(現状)について説明する。
- 有識者から担当課職員に対して一問一答形式で質問し、公共施設に係る現状と課題を整理していく。
- 議論を聞いた住民協議会メンバーは、視点ごとに評価を行い、今後さらなる議論が必要と思う論点について「**評価シート**」に記入する。

住民協議会の中で意見が変わってもよい。

住民協議会(合計3回)

論点をもとに 課題や改善策を議論

<1回目、2回目>

- 施設レビューの論点や課題をもとに、住民協議会メンバーが日常生活で感じる課題や解決策について議論する。
- ナビゲーターは、他自治体での事例等を説明する。
- 担当課職員は、コーディネーターからの問いかけに応じる。
- 住民協議会メンバーは、議論した内容を「**改善提案シート**」に記入する。

集約に向けた議論

<3回目>

- 住民協議会メンバーは第1,2回の「改善提案シート」のまとめ(提案書の素案)に対して、更に意見を出し合い、集約につなげていく。
- これらを纏めて整理し、田原本町の公共施設あり方検討の報告書として整理する(田原本町と構想日本で行う)。

一つひとつの施設の必要性を決めることだけではなく、見直しに必要な視点の提供を目的とする。

【参考】改善提案シート の例

改善提案シート

第 分科会

名前:

あなたが考える現状の課題

その課題を解決する方法

<例> 公園が利用されていない	(住民の役割) — ・個人として 知らない公園が多いので把握する ・地域として 草刈りなど、公園整備のサポートをする 休憩用のベンチを提供する
	(行政の役割) — 街の中にある遊び場のマップを作成する
	(その他) —

あなたが考える現状の課題

その課題を解決する方法

協議会において議論
をする中で参加委員
が考えた現状の課題
を記載。

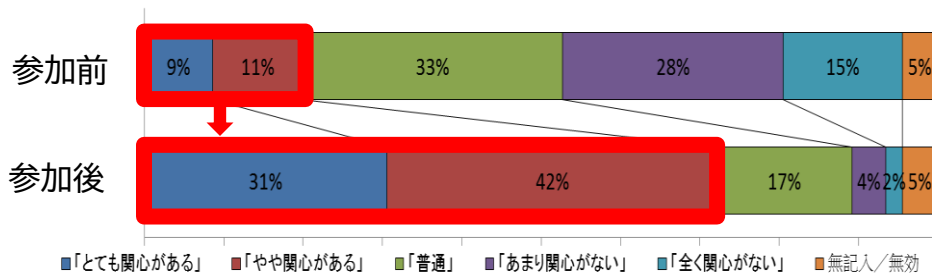
	(住民の役割) — ・個人としてできること —	自助
	・地域としてできること —	
	(行政の役割) —	公助
	(その他) —	

その課題を解決するにあたり、個人、地域、行政それぞれが取り組むべきことを記載。

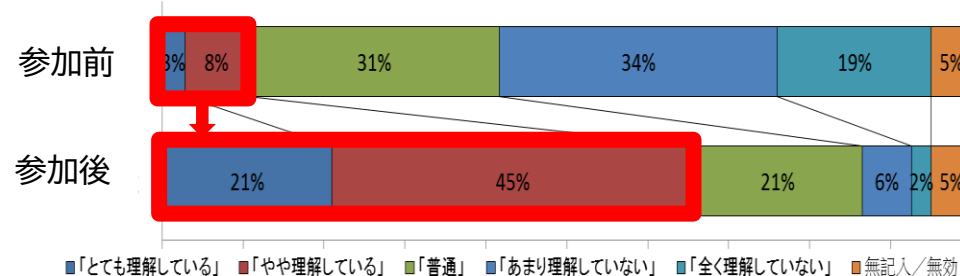
無作為抽出方式による住民参加のアンケート結果(1)

① 参加前後の意識・行動の変化

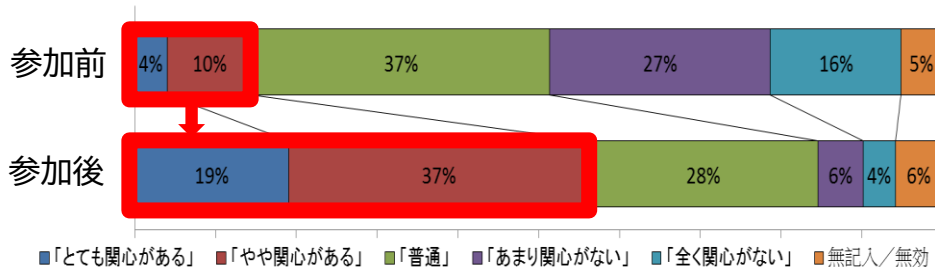
設問 1) 税金の使い方への関心度



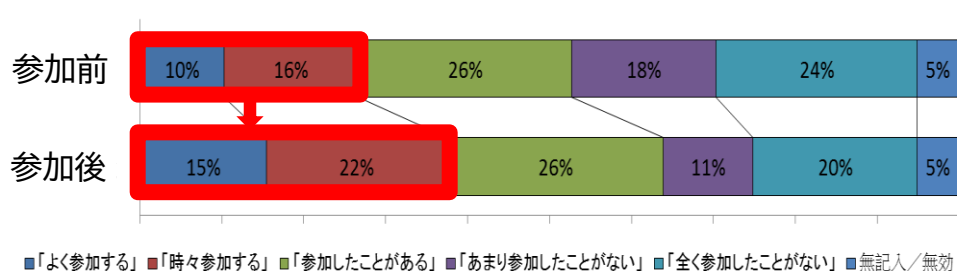
設問 2) 行政の事業の内容についての理解度



設問 3) 行政や議会の情報への関心度



設問 4) 地域づくりに関わる集まりに参加する頻度

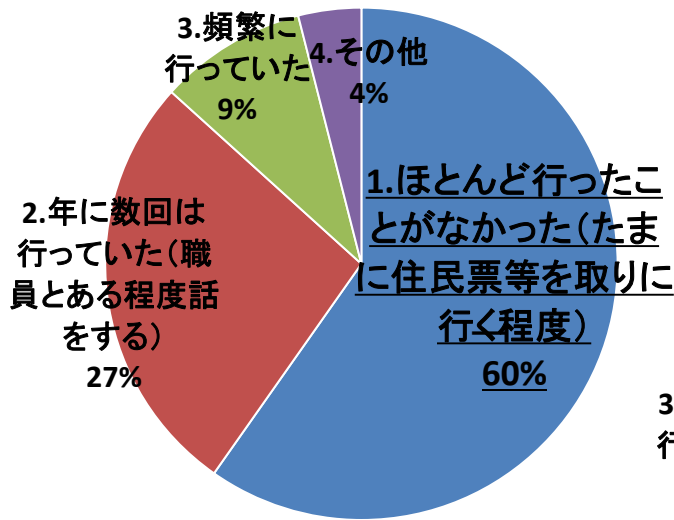


※2009年～12年に実施(のべ35自治体)2,846人が対象。回答率43.4%。

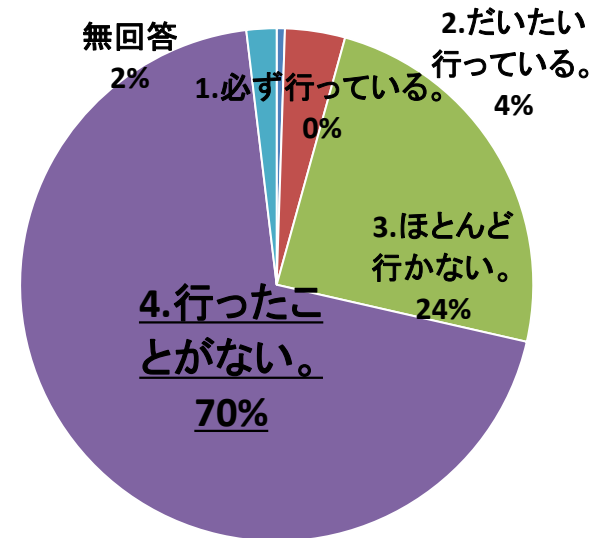
無作為抽出方式による住民参加のアンケート結果(2)

○参加した住民へのアンケート結果*より。

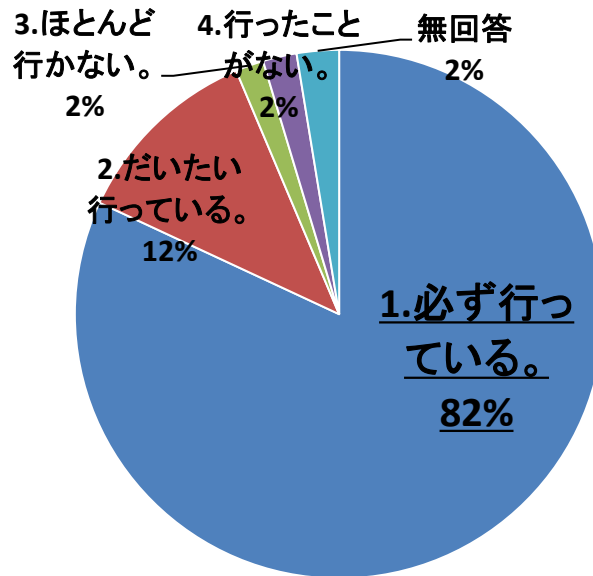
役所との関わり頻度



議会の傍聴に行きますか？

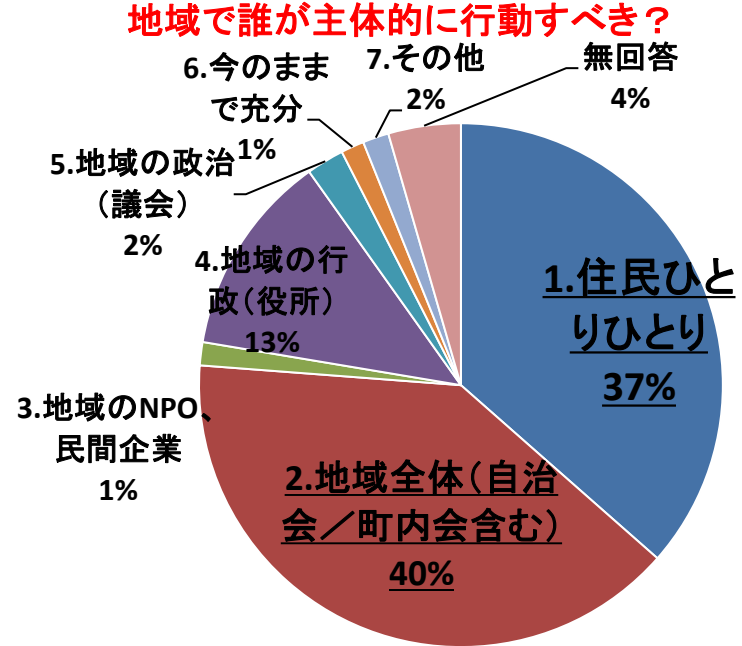
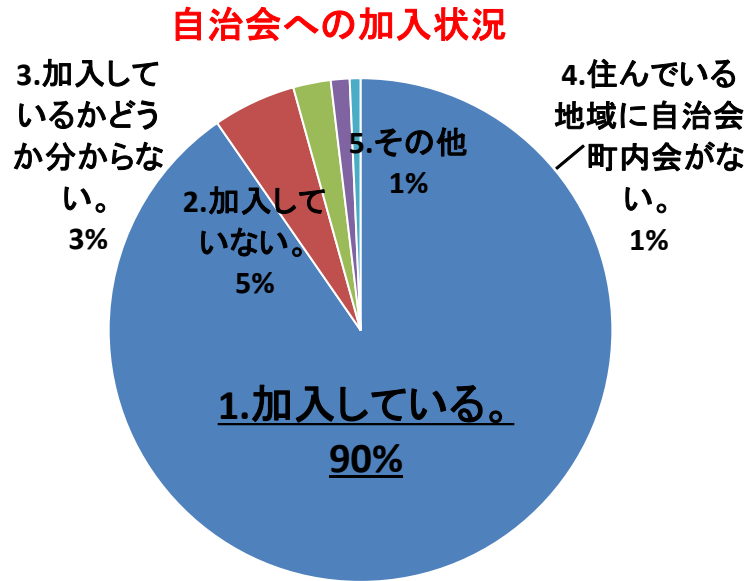


選挙の投票に行きますか？



*2013,14年度に実施した12自治体の住民約1,100名が対象。回答率52%。

無作為抽出方式による住民参加のアンケート結果(3)



アンケート結果から見てくる参加住民の特徴

1. 役所との接点が少ない
2. しかし、投票や自治会加入など社会的な関心は高い
3. 自助、共助の意識がきわめて高い

無作為抽出は、「意識は高いが、役所との接点の少ない住民」に行政参加を促す一つの手法と言える。

無作為抽出方式による住民参加のアンケート結果(4)

意識の変化

1. 非常にためになりました。いろいろな意見が出て納得する部分が多く、とても楽しい時間でした。この取組はとてもいいと思います。また是非来たいと思いました！！(伊勢原市、30代女性)
2. コーディネーターの話が大変良く、理解することができた。また、役場の職員の前向きな考えがよく伝わってきた。(三木町、50代男性)
3. この半年間、これほど自分のふるさとのことを考えたことはなかった。(行方市、50代女性)
4. 今回たまたま市民の中から選ばれて参加できることになってとても良い機会だったと思い感謝しています。ただ何も知らず考えることもなかった行政だったり税金の使い方を知る事ができました。(銚子市、40代女性)

行動の変化

1. 行政に無関心だったが、家族や友人との会話の中で参加した会議を話題に出すようになった。(三木町、20代女性、学生)
2. 参加した市民の有志メンバーで、地域の役に立てることを考える会を結成。昨年NPO法人を設立。(行方市)
3. 協議会に参加して以降、地域のことを「自分事」として考えることの必要性を感じて、自分が住む地域の「女子会」(勉強会)を結成。(富津市、40代女性)
4. 協議会に参加したことで、心の病を患った自分の経験を活かせることもあると感じ、子育ての悩み相談に関するサークルを立ち上げた。(太田市、30代女性)
5. 過去の参加者による「OBOG会」を結成。自分たちで案内を送付し、議会も招いての勉強会も開催。

意識だけでなく行動の変化が起きている。

個別施設シートの読み方

※以降、各シートの項目や説明は一例となります
(実際に施設レビューで使用するシートは、施設レビュー開催前までに送付予定です)

個別施設シートの読み方①

施設シート										2019年度	
番号		名称	施設の名称							<input type="checkbox"/> 単独館 <input type="checkbox"/> 複合館	
所在地		施設の所在地									
根拠条例等		施設設置の根拠となる法律や条例等									
土地情報	所有面積	総面積の内、市所有部分の面積	m ²	地目	登記簿上の地目		所管課				
	借地面積	総面積の内、借地部分の面積	m ²	借地元	町が所有していない場合に記載		作成責任者				
	総面積		m ²	借地料	千円/年		財産区分		<input type="checkbox"/> 行政 <input type="checkbox"/> 普通		
建物情報	延べ床面積	施設の全ての建物の床面積の合計 (m ²)	m ²	所有区分	<input type="checkbox"/> 自己所有 <input type="checkbox"/> 借用		構造				
	建設・取得	年 月 (建設・取得)		設計者			IS値				
	補助金有無	建設・取得時の補助金の有無 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無					階数		施設の主な建物の階数		
	借用元	建物が「借用」の場合の借用相手					借用金額		千円/年		
	建設・取得額			千円	取得経緯	県などから譲渡された場合などに記載					
	地方債残高			<input type="checkbox"/> 有 (残高 円) 償還 (年/ 年) <input type="checkbox"/> 無							
	改修等	改修時期・内容・金額		<input type="checkbox"/> 耐震 <input type="checkbox"/> 大規模改修 <input type="checkbox"/> バリアフリー化 <input type="checkbox"/> 省エネ対応 耐震診断の実施状況、実施結果及び耐震診断が必要とされた場合の実施の状況。また、最近の改修履歴や今後想定されている改修等を記載。							

建物が複数の場合、主たる建物について記入

個別施設シートの読み方②

基本 情報	設置目的	条例等に記載されている目的等を記載		
	実施事業	当該施設で実施している事業の概要。詳細は事業シートに記載。		
	主な利用者 (複数選択可)	<input type="checkbox"/> 官公庁利用 <input type="checkbox"/> 主催事業 <input type="checkbox"/> 登録団体(団体数:) <input type="checkbox"/> 市内一般企業、団体 <input type="checkbox"/> 市外一般企業、団体 <input type="checkbox"/> 市民 <input type="checkbox"/> 市外住民 <input type="checkbox"/> その他()		
	利用の制限	条例などで利用の制限がある場合に記入		
	開館日数	日/年	休館日	
	開館時間			
	管理体制 (複数選択可)	<input type="checkbox"/> 直接管理 <input type="checkbox"/> 業務委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 住民等の自主管理 (委託先又は指定管理者: 直接管理以外の場合、受託者等を記載) (委託内容・金額・事業者選定方法:) 委託や指定管理の場合、その内容や金額、事業者の選定方法について記載。		

個別施設シートの読み方③

基本情報	施設の概要	名称	施設を構成する建物名			名称	△△			名称			
		床面積	〇〇㎡	部屋数	3	床面積	△△㎡	部屋数	2	床面積	㎡	部屋数	
		名称				名称				名称			
		床面積	㎡	部屋数		床面積	㎡	部屋数		床面積	㎡	部屋数	
		名称				名称				名称			
		床面積	㎡	部屋数		床面積	㎡	部屋数		床面積	㎡	部屋数	
		名称				名称				名称			
		床面積	㎡	部屋数		床面積	㎡	部屋数		床面積	㎡	部屋数	
ハード（施設維持管理） ソフト（実施事業） にかかる人員				正規職員	嘱託職員等	委託業者	指定管理者	住民等の自主管理	その他	合計			
		ハード	施設の維持管理に携わった市職員等のそれぞれの人員について記載。（人）										
		ソフト	施設で実施している事業に携わった市職員等のそれぞれの人員について記載。（人）										
		合計	ハード・ソフトを合計した施設全体に関する人員について記載。（人）										

職員の業務割合に応じて、小数点以下1位で記入。

個別施設シートの読み方④

		2019年度（予算）	2018年度（決算見込）	2017年度（決算）	2016年度（決算）	
維持管理費	総支出		施設維持管理に関する支出の合計			
	財源内訳	収入合計	施設維持管理に関する収入の合計			
		使用料・手数料	利用料金など、施設を使用したことで発生した料金			維持管理に要する経費のみとし、運営に関する経費を含まない。
		国県補助金	国や県からの補助金など			
		その他（ ）	上記以外の収入			
	一般財源	施設維持管理以外で、施設で実施する事業による収入				
	支出内訳（2018年度分）		利用料金制の場合は、その旨記載し、カッコ書きで料金を記載。			
人件費：	千円	人件費は平均給与から算出。	指定管理料のうち管理委託分：	千円		
委託料：	千円		減価償却費：	千円		
光熱水費：	千円		地方債の元利償還：	千円		
修繕料：	千円		その他（ ）	千円		
（修繕内容： ）						

個別施設シートの読み方⑤

利用状況	各部屋別稼働率	名称		平日	%	土日祝	%		
		午前	%	午後	%	夜間	%	合計	%
		名称	施設の各部屋ごとの稼働状況。 【数字の見方】 午前、午後、夜間それぞれの時間帯でどのくらい埋まっているかを示している。					%	
		午前						%	
		名称	例)1年間で利用可能日が300日で、午前15%、午後45%、夜間20%の稼働率だった場合。 ・午前の時間帯は1年間で45日(300日×0.15)、午後は135日、夜間は60日利用されていたことになる。 ・全体は、240コマ/900コマ=26.7%になる。					%	
		午前						%	
		名称	「平日」「土日祝」も同様の考え方で計算する。					%	
		午前	%	午後	%	夜間	%	合計	%
自己評価・特記事項等	課題に感じていることや市民に伝えたい特記事項、経緯など。								

(参考) 対象団体シートを読み方①

委託・指定管理・補助 対象団体シート（概要説明書）

予算事業名	対象事業名	事業開始年度	事業の開始年度	
団体名	委託・指定管理・補助を行っているすべての団体ではなく、町との関わりが深い団体についてシートを作成（具体的にどの団体について記載するかは個別に相談）			
団体への支出根拠 （選定経過等、支出先の妥当性）				各団体等への支出根拠
当該事業の団体における収支状況	収入		支出	
	国からの財政支出金	千円	対象事業の実施にあたっての、各団体における収支状況について、2018年度の決算額を記載。	千円
	県からの財政支出金	千円		千円
	市町村からの財政支出金	千円		千円
	委託料・指定管理料	千円		千円
	補助金	千円		千円
	その他	千円		千円
	その他（ ）	千円		千円
総計	千円	総計	千円	

※委託料は設計ベースのため、収入と一致しない場合あり。

(参考) 対象団体シートを読み方②

団体概要	団体の組織と活動の全体概要										
	資本金		千円	役職員	(単位:人)	常勤	うち (出向/OB)	非常勤	うち (出向/OB)	監事	うち (出向/OB)
	市出資金		千円		役員						
	出資比率		%		職員						
団体全体の 収支状況	収入					支出					
	国からの財政支出金			千円	対象事業に関する経費だけでなく、その団体全体の2018年度の収支内訳を記載					千円	
	県からの財政支出金			千円						千円	
	市町村からの財政支出金			千円						千円	
	委託料・指定管理料			千円						千円	
	補助金			千円						千円	
	その他			千円							
	その他 ()			千円							
総計			千円	収支差		千円					
特記事項	負債総額: 円 資本総額: 円 利益剰余金(もしくは欠損金): 円										
財務諸表URL											

(参考) 対象団体シートを読み方③

委託先シート				2019年度
委託内容	委託先	委託金額		事業者選定方法
委託した業務の内容	委託先の団体の名称		千円	入札や随意契約等の選定方法
委託の状況の全体像を把握しやすくするために作成。			千円	
			千円	
			千円	
			千円	
			千円	
			千円	
			千円	
			千円	
			千円	
			千円	
			千円	
			千円	
			千円	
			千円	
			千円	